

私の革新

ら眺める田園風景や大自然の感動を十分に味わっていただけるはずで。

——古材銀行を始めるきっかけのタイには現地法人も設立していますね。

渋谷 二〇〇二年にバンクコクとチェンマイにつくりました。古材銀行の拠点としての機能とともに、皆様が海外進出する際のサポートなど、新しい事業を展開するきっかけにしたいと思っています。

渋谷はすごいと わかってもらいたい

——会社情報の発信やディスプレイの仕方などに大きなこだわりをお持ちのようですが、その理由をお聞かせください。

渋谷 私は、「神は細部に宿る」という考

えを持っています。通常テーブルをふくときは、中央は誰でもきれいにしますが、端の部分はなおざりになりがちです。そういうところからほころびが出てしまう。そうならないよう、社員一同戒めていきます。

情報を発信するときも同じで、「どのように見せたら、お客様によく渋谷のことがわかってもらえるか」ということを常に考えています。ホームページもデザインに気を遣い、最新のニュースや会社の事業内容などはこまめに更新しています。さまざまな案内資料を作ったり、広告を出すときもなるべく渋谷に興味を持ってもらえるように工夫を凝らしています。このような小さなことを丁寧の一つ一つ積み上げていくことが会社全体の信用になると考えています。私を含め、これからの若い経営者は、地

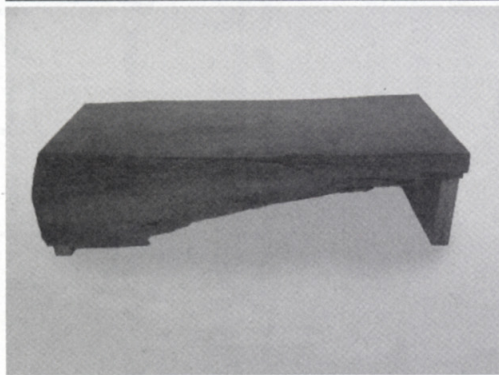
元だけでなく全国、世界などを見すえた広い視点と、お客様の目が届かないようなところまで気を配る繊細さが大切でしょう。

——ところで、この不景気の中、給与カットをしないばかりか、ボーナスまでアップしていると聞きましたが。

渋谷 つらい時代に苦勞している社員に報いるのが社長の仕事。前年より売上が上がったなら、それに報いたいと素直に思いました。こういう時代だからこそ、ボーナスで社員のモチベーションも上がるし、その話が入つてに伝われば会社の信用力も上がるというものです。バブルの時代だと、ボーナスが上がっても誰も驚きませんでした。この不景気だと「渋谷はすごい」とわかってもらえますから。

それだけ業績が上がるのは、社員の頑張りであり、渋谷を支えてくださったお客様のおかけです。いま社員やお客様と飲む酒のほうが、バブルのときに飲んだ酒より何倍もうまく感じます。

不景気で守りの姿勢を取る企業も多いが、それではじり貧で縮小再生産の悪循環に陥りかねない。常に先の展開を考え新事業に取り組み続ける渋谷社長の姿勢が、不景気を抜けたときにどのように花開くか、期待を込めて見守りたい。



モダンなインテリアにも古材は活用される(上)。古材によるテーブル(下)

商工研客員研究員 岩崎寿次